

第1回 共同輸配送促進に向けたマッチングの仕組みに関する検討会 議事概要

1 日時

平成26年12月15日(月)16:00~18:00

2 場所

赤坂 T-Front 3階会議室

3 議事概要

1. 事務局より、調査の主旨・進め方、今後の検討について資料を説明。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○共同輸配送上の貨物の組合せについて、工業製品や建築分野では専門の輸送知識が必要であったりするので、据付作業や汚れ等も踏まえ、様々な条件を考慮する必要がある。

○食品物流分野では、日々の直近の荷物の扱いが課題となっている。

○荷主にとって、製造等の幹線輸送よりも、エリア配送における取り組みが喫緊の課題となっている。求貨求車システムは、過去多く開発されたが、現在、続いているのは僅かであり、活用されなかった理由を整理することが必要である。また、本事業終了後の運営については、十分な議論が必要である。

○物流業界では、今後、約15万人のドライバー減少という、喫緊の課題があり、共同輸配送の「輸送の合理化」の取り組みを、推し進めることは急務である。

○共同輸配送は、業種により、商品の季節変動やモデルチェンジがあるものがあり、マッチングは、なかなか上手くいかない場合が多い。どういう業種とマッチングが可能か、十分な議論が必要である。また、マッチングを行う上で、スピード感、与信管理についても重要な項目である。

○マッチングによるCO2排出量削減については、掲示板のような形のやり取りだけでは終わらず、双方の企業の日別の貨物・トラックの情報を集めて、検証するのか、登録の定義を明らかにする必要がある。

- 一度システムを利用し、関係を築いてしまえば、その後は行なわれなくなってしまうのではないか。継続的に使うには、アイデアが必要。
- 本調査は一つの社会実験だか、実験のための実験とせず、実態を踏まえた調査にしてもらいたい。

以上
(文責 事務局)